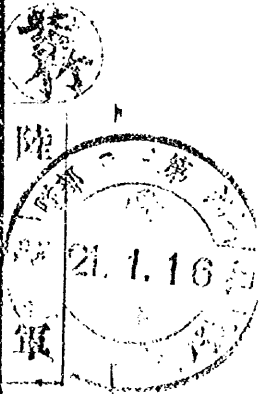


衛生史編纂資料

昭和二十年十二月十日於衛陽
第六十八師團軍醫部



第一、大東亞戰爭終戦前 (自昭和十九年十一月一日至昭和二十年八月)

一、部隊行動ノ概要

南部粵漢打通作戦及び湘西作戦ニ一部参加スルト共ニ他ハ
廣汎ナル範圍ニ亘ル警備ニ任ジ、屢々活潑ナル討伐ヲ實施シ敵
ノ浸透シ来ル破壊、謀略、襲撃ヲ破摧シアリタルモンノ間編成改
正ヲ實施セラレタリ又師團ハ反轉ヲ予期シ、堅固ナル陣地ヲ概成スル
傍ヲ前方兵團ノ徹收ノ爲糧秣ノ收集補給ニ任シツツアリシカ反轉ヲ
實施セントスル直前停戦ヲ命ゼラレ茲ニ中支方面ノ最前方師團
トシテ衛陽地區ニ在リテ中國軍ノ管理ヲ受クルニ至レリ

二、軍醫部業務ノ概要

衛生業務ノ重点ヲ保育及防疫、防瘧ニ指向シ、間断ナキ作戦
討伐及屢次ニ亘ル駐留地移動等諸種衛生上ノ隘路ヲ克服シ
之ガ徹底ニ努メタリ、一月全員ニ対シ終熄期「マリア」原虫検索

0824

軍醫分団
衛生科

結核及腸管系傳染病検索ヲ實施シ又地方防疫委員會ヲ
設置シ之カ指導ヲ行ヘリ

2. 作戦間ハ勿論、駐留間ト雖モ高度ニ分散シアリタルヲ以テ常ニ兩
旅團ニ野戦病院ノ一部ヲ配属シ傷病者ノ收療ニ任セシメタリ

3. 初年兵受領ノ爲軍醫五以下若干ノ衛生部員ヲ武漢地區ニ派遣セリ
4. 後方ニ残置セル衛生材料ヲ處分シ、重要ナル器械、藥物ハ携行シ
不要品ハ返納セシメタリ

5. 回歸熱検疫所ヲ設置シ通過部隊ニ対シ驅風ヲ實施セリ

6. 毎月一回軍醫分団研究會ヲ開催セル他、四回ニ亘リ各部隊軍醫將校
ヲ又一回下士官ヲ集合教育ヲ實施セリ

7. 毎月一回衛生下士官會報ヲ實施シ、業務連絡及命令、通牒等
ノ徹底及下士官ノ教育ニ努メタリ

三、患者ノ狀況

作戦ノ要求ニ基ツク屢次ノ討伐、移動、補給ノ不円滑、衛生材料ノ不足

(編者註・参考)

殊ニ給養ノ不適等ニヨリ患者比較的多發シ、一二月ノ最モ少キ月間ニ於テ
 練兵休以上新患概ネ八〇〇名漸次増加シ、七月二八、五〇〇名ヲ發生セリ
 主ナル病類ハ「マラリア」首位ヲ占メ、亞イデ脚氣、胃腸病トシ、傳染病ハ
 赤痢多ク、死者ノ大半ハ赤痢、「マラリア」戰爭營養失調症等ナリ
 四、患者輸送ノ狀況

一、警備地ノ關係上部隊ヨリ野戰病院迄三日乃至五日ヲ要シ、途中警戒
 ノ爲少クモ一ケ小隊ヲ附セザラザ得ザル状態ナリシト病院糧秣モ自隊收
 集ノ爲給養不良化セシヲ以テ部隊ノ休養室ヲ擴張シ自隊治療ニ
 努メシメタリ

二、附近ノ兵站病院ニ於テモ患者ノ給養不良ナリシヲ以テ、努メテ師團野戰
 病院ニ於テ治療ノ完成ニ努メ、治療ニ長期ヲ要スル者、原隊復歸當分不可
 能ナ者等止ムヲ得ザル者ノミ兵站病院ニ後送セリ

五、防疫、防瘧

一、防疫(瘧)ニ就テハ昨年度ト現地ノ狀況ニ鑑ミ現地ニ即應セル防疫(瘧)ノ

細部實施規定ヲ判定シ實施ノ確行ヲ期セシメタルモ各種ノ討伐移動ノ爲相當數ノ患者ヲ發生セリ、

特ニ防疫ニ於テハ野戰防疫便所ノ設置、クリーク汚水ニヨル食器類ノ洗滌、惡飲食等ヲ嚴禁シ、防疫委員會ヲ設置四季ヲ通シテ部隊曲及地方側ノ衛生指導ヲ任セリ

又防疫ニ於テハ師團ニ於テハ「マリア」原虫檢索班及「マリア」浸潤地ノ調査ヲ實施シ各隊ニ於ケル防疫工作ノ指導並ニ「マリア」原虫檢索ヲ實施セリ然レ共各隊共蚊帳ノ支給ノ遲延及作戰時蚊帳ノ携行不能トヨリ「マリア」罹患率モ高率ヲ示セルモノト推定シアリ

「ヨモギ」ニヨル燻烟ハ相當効アルモノト認めラル

2. 衡陽周辺隸指揮下部隊ノ「マリア」原虫檢索、結核及腸管系檢索ヲ

一月實施セリ。「マリア」原虫檢索ハ歩兵部隊ハ各隊毎ニ實施シ「百一三〇%」陽性者ヲ出シアリテ、原虫區分ハ大半(約八〇%)三日熱ニシテ他ハ熱帶熱ナリ

(續谷越・京坂)

三万人

本検査ニ於テ「ギムザ液節用ノ爲普通五%ヲニ五%トシ、濃度時間ヲ温度ニ應ジ長ク(概ネ一時間)染色シ、且本液ヲ二回使用シ、又厚層標本ノ血滴ヲ小ナラシメタリ、之ニヨリニ五瓦ニテ、五〇〇人分使用可能ナリ

3. 回歸熱蔓延ノ徴アリシヲ以テ虱驅除ニ努カメタリ、又通過部隊ノ爲交通ノ要衝ニテ所ニ検査所ヲ設ケ、コロラム罐ニヨリ襦袢、袴下ノ熱氣消毒ヲシ、約二万人ニ實施セリ

4. 六、七月頃ヨリ下痢、嘔吐患者時々散發セルヲ以テ、其ノ都度検査班ヲ派遣シ、コレラ防疫ニ努カメタルモ總テ陰性ニシテ又蔓延セシコトナシ

5. 某警備隊ニ於テ炊事ニ使用シアリタル若カノタメ米飯中ニ毒物ヲ混入セラレ十三名死セシコトアリ、直チニ検査班ヲ派遣シ患者ヲ收容セシムルト共ニ検査ヲ實施セルニ砒素ト判明セリ

六、保育ノ狀況

1. 現地ニアル棒秤等ヲ利用シ毎月例身体検査ニハ必ず体重ヲ測定セシメ又体力検査ノ各種目中少クモ負擔早駢ヲ實施セシメ、体力消長ノ参考

陸 軍

0828

タラシメタリ、昭和二十年三月到着セル現役初年兵ノ平均体重約五〇斤ニシテ、古年兵ハ概ネ五六斤ノ平均値ヲ示シアリタリ、ソノ他胸囲及負擔早駆ハ勿論各種体力検査ニ於テ本年度初年兵ハ例年ノ初年兵ニ比シ著シキ遜色ヲ示シアリタリ

2. 昭和十九年八月衡陽陥落直後到着セル補充兵ハ途中給養ノ不良ソノ他各種衛生的不良環境ノ爲、内地部隊入隊時ノ約六〇%ノ人員到着セシノミニシテ、而モ弱兵、病兵多ク、昭和十九年十二月末ニハ在隊セル者約三〇%ナリ

3. 昭和二十年三月到着セル昭和十九年度徵集現役初年兵モ武漢地区滞在間及ビ長途行軍間休養ノ不適切ソノ他諸種不良環境ノ爲、内地補充隊入隊時ノ約三〇%ハ到着セズ

4. 以上ノ如ク部隊ハ弱兵頗ル多ク交戦、討伐ニ寧日ナキヲ以テ各部隊毎ニ特別訓練隊ヲ設置セシノ初年兵到着後直チニ健兵ト弱兵ヲ區別シ保育ノ完璧ヲ期セリ、特ニ初期ハ二十ヶ月以上ニ亘ル給養粗悪ナル長途行軍ノ

(編者註・終)

ノ疲勞ヲ恢復セシムルニ努メ特別給養ヲ實施シ、又肝油球ニケ月分ヲ補給セリ

5. 結核患者ハ比較的少キモ之カ早期發見ノ爲各隊ニ於ケル全員ニ對シ喀痰検査ヲ實施セリ

七、一般衛生

(一) 給水

1. 作戰間ノ衛生兵四五名ヲ以テ前進給水班ヲ編成シ各大隊毎ニ濾水機乙一具ヲ擔夫ニ擔ハシメ給水ニ當ラシメタリ。ソノ効果ハ夏季特ニ陣地攻撃ノ如キ比較的移動少キ時ハ效果大ナルモ、ソノ他ハ余リ利用セラレズ、即チ殆んど何處ニテモ比較的透明ナル良水ヲ得ラレシヲ以テ煮沸ノミニヨリ無菌的良水ノ取得容易ナレバナリ。

2. 駐留間ハ簡易濾過裝置ヲ施シ使用セリ。

3. 現地ニ於テ茶ノ取得比較的容易ニシテ一般ニ湯茶等ニハ不便ヲ感ゼシコトナシ

(二) 給養

1. 後方ヨリノ補給殆ドナク、而モ現地収集ノ米ハ他兵團通過ニ供出セシ爲主、
副食共極メテ貧弱ニシテ、主食ハ玄米五五〇乃至六〇〇瓦、副食ハ野菜、キノコト
多ク、各隊共養雞、養豚、養魚、及野菜ノ栽培ヲ實施シ、現地自活ニ徹底
セリ、又山野ノ草木ニシテ食ニ得ル物總テノ取得ニ努メタル結果、カロリーニ
二、五〇〇、三、〇〇〇カロリートキ辛シテ保持セリ

2. 調味品極メテ少ク、殆ド現地収集ノ岩塩ノミニヨルコト多シ

3. 酒、煙草、ソノ他ノ嗜好品モ殆ド大部ヲ現地調辨ニヨレリ

(三) 被服

1. 冬衣袴ハ十二月ニ初メテ支給サル、試製用襟襦袢ニ代用袴下ニヨリ夏季ヲ
過セリ。又蒲團、毛布等ノ補給部隊ニハ殆ドナク、野戦病院ニ四月

一、〇〇〇枚補給シ得タリ

2. 蚊帳ハ七月全員ニ支給シ得タリ(アノ左レス蚊ハ五月ヨリ發生シアリ)

(四) 宿營

總テ支那民家ヲ利用、床上ガラシ藁及草座ヲ敷キテ、適當ニ土壁ヲ毀テ

(續前頁・東京)

0831

採光、通風ヲナシアリ。

八衛生材料ノ狀況

昭和十九年末ヨリ兵團保有衛生材料ハ逐次減少ヲ示セリ之ハ後方ヨリノ補給量激減ニ依ルモノニシテ患者ノ多發スルニ伴ヒ消費量ノ適正消費節約尊重愛護、再生利用、創意工夫ニ依ル現地自治ノ徹底等總ユル手段ヲ盡シタルモ診療ニ支障ナシト言フヲ得ガリキ。

當兵團衡陽駐留狀態ニ入りタルヲ以テ昭和二十年二月上旬東大尉以下所要ノ人員ヲ武漢及九江、石灰窑地區残置衛生材料整理ノ爲派遣シ該地區残置衛生材料中不要品ハ各武集團野戰貨物廠ニ返納セシムルト共ニ緊要品ヲ前送セシメ各部隊ニ交付セリ。

野戰病院及各部隊ニ於テハ後述スル如キ現地自治ヲ實施シ大イニ効果ヲ擧ゲタリ

九、現地自治實施狀況(別紙)

第二 終 戦 後

一、衛生材料接收狀況

終戦直前大半ノ衛生材料ヲ轉進準備ノ爲後送シ、部隊ハ長途行軍ヲ予期シ、行軍間、必要藥物若干ヲ携行セルノミニテ衡陽ニ依然トシテ留マルコトナリタルヲ以テ愈々困窮セルモ銳意創意工夫ヲ凝ラシ診療ヲ實施セリ特ニ不足セルハ「マリア」劑、軟膏類ナリ、其ノ後「マリア」皮膚病患者多發シ「マリア」劑、硫黄劑不足セルモ十一月月上旬早晨ニ反轉ノ爲後送シ岳州方面ニアリタル梱包ノ一部到着セリ、然レドモ尚充分ナラザリシヲ以テ硫黄劑ハ中國第二十六軍軍醫處ニ交渉シ結果一、五〇〇瓦ヲ受領シ、又經理部ヨリ五〇、〇〇〇瓦ヲ購入シ、各部隊ニ交付セル爲概ネ需要ヲ滿シ得タリ接收ニ関シテハ武装解除直前頻繁ニ當面ノ中國軍(第七十四軍)ト接衝ヲ重ネ概ネ円滑裡ニ進捗シ、衛生材料ニシテ接收セラレシハ極ク僅少ナリ、讓渡セル品目数量既報告ノ如シ

二、患者ノ狀況

八月間患者發生狀況左表ノ如シ

(報告表・原丸)

0833

患者發生狀況

月別	患者數			計	健康人員ニ對スル千分比(%)
	マリア	胃腸病外破病	其他		
九月	一〇二六	四七二	二七二	一九七九	二八〇、二%
十月	九八六	三二六	一六二	一八〇三	二五七、五%
十一月	八〇二	一九三	五二九	一八七九	二六八、四%
十二月	六六四	六九	七〇	一三六九	二〇一、二%

備考一、本表ハ月間ニ於ケル練兵休以上ノ新患トス

二、主要ナル疾病ハ「マリア」及「疥癬」ニシテ特ニ「マリア」ハ「マリア」劑不足ノ爲

ト今後ノ衛戍補給見透シ不明ノ爲熱發等症狀消退セバ投藥ヲ

中止シ完全治療ハ實施シ得ザル狀態ナリ

疥癬ハ前記ノ如ク概ネ完全ニ治療スルヲ得タリ

三、十月一日ヲ初發トシ十一月二十七日迄ノ間ニコレラ患患者ニ〇名發生シ嚴重ナル防疫

ヲ實施セリ(衛陽市内ニ於テハ民間ニ約六五〇名死セリト)

四、患者收容施設

患者發生數

民間コレラ患患者

野戦病院ノ家屋ハ終戦前日本軍ノ宿營セシ處ナルヲ以テ概ネ
良好ニシテ約三〇〇名ノ收容能力ヲ以テ開設セシメタリ尚兩旅團ニ配屬
ノ野戦病院ヨリノ患者收容班ヲモ開設セシメ兩旅團ノ患者ヲ收容
セシメタリ、各隊休養室モ夫々ノ設營ニ重兵ヲ置キタル爲良好ナリ

三、一般衛生

一、家屋ハ一般ニ終戦前日本軍ノ使用シアリタル支那民家ニソノ儘入リシ
ヲ以テ一般ニ良好ニシテ、扉壁等無キ場合ハ茅ヲ以テ作り防寒設備ヲ
セリ、然レ共第五十七旅團ノ宿營民家ハ比較的の不良ナリシモ鋭意創意
工夫ニヨリ整備サレタリ

二、被服ハ十二月概ネ冬ニ衣袴冬ニ襦袢袴下等各人一着宛支給セラレ
冬外套ハ概ネ五人ニ一枚位、毛布ハ極ク僅少ナリ

四、檢疫業務ノ概要

一、腸管系傳染病ノミ野戦病院ニ於テ担任シ「マリア」原虫檢索及
性病檢索ハ各隊毎ニ實施セリソノ成績左ノ如シ

受檢人員	マリア陽性数 (千分比%)	腸管系傳染病 (%)	性病	病摘	要
六七〇四	一〇五四 (一五七・二)	赤痢アメーバ (一六)	淋病 (一)	梅毒 (一)	アアメーバ赤痢五入院 セシナ他總テ自隊 治療ス
		細菌性赤痢 (〇・二)	計 (三・二)		

2. 本検査ニ当リツエエテ油不足セル爲良質茶油ヲ代用セルニ視野稍々暗ク眼疲レルモ著シキ深色ヲ認マズ

又檢便紙ノセロハニ不足セル爲木ノ葉及儲備券ヲ以テ代用シ効果アリタリ。

五. 患者後送ノ状況

八月ヨリ九月初旬ニカケ当時師團野戰病院ニ收容シアリタル患者及反轉ヲ予期シ各隊患者全員ヲ鉄道、民船、自動車ニヨリ後送セル也。他行軍ニ堪ヘガル弱兵約八〇〇名ヲ鉄道ニヨリ後送セリ。

接收セラレシ後師團ハ依然トシテ衡陽ニ留マルトナリシヲ以テ後送セル弱兵ハ岳州附近ニ集結シテ独立混成第十七旅團長ノ指揮下ニ入レリ、患者ハソノ後十月初旬中國第二十六軍ノ許可ヲ得テ鉄道ニヨリ

勅一三四名長沙兵站病院ニ後送、又十一日十九日民船ニ乗ヨリ

三二一名撈刀市第一八四兵站病院ニ、又昭和二十一年一月一日自動集車

四輛ニヨリ独歩患者ノミ六五名同病院ニ後送セリ

六其ノ他必要事項

一隊附軍醫ヲ集合セシメ恩給診断證書ヲ調製要領ヲ教育セリ

ノ然レ共恩給関係ノ書類大半ヲ焼失シ、且握力計、眼底検査器具

ソ、他必要ナル機械類皆無ノ爲正確ヲ期シ得ガルト醫學的觀

念ヨリ判定ヲ妥宜施シアリ

二当師團ノミ遠隔ノ地ニ留マリ衛生材料不足シ特ニマリア剤^ヲサルバル

サン剤^ヲエメチン^ヲ等特殊藥ハ極度ニ不足シ患者全員ニ完全治療

ハ到底ナシ得ズ、全員ニ罹患證明書ヲ交付シ、症狀消退セバ投藥

ヲ中止シアルヲ以テ是等藥物ノ大量交付ヲ切望ス

別紙

陸軍

九、現地自治官實施ノ狀況

一、棟幹皮使用ニ依ル蛔虫駆除法

ハ、材料、棟幹皮ヲ採集シ、此際幹皮ノ一部ヲ剝キ厚木ヲ粘レシメザル如クス。七日
間陰干乾燥シ約セロ瓦ヲ水一五ニ投ジ煮沸ニロ分ニシテ珈琲色ヲ呈スルニ及ビ冷却
後使用ス

ニ、服用方法、夕食ヲ半食セシメ、就寝前前次煎液一五ロ瓦ヲ二日間連用ス。本法ニハ

下劑ノ併用ヲ必要トセス

3 効果 二日以内ニ排虫ヲ認メ、サントニンニマクリ煎劑ニ劣ラズ

ハ、副作用 特記スヘキ副作用ナシ、但幹皮ノ乾燥不充分ナル時ハ屢々痙攣ヲ来ス事アリ

二、棟煎錠

棟幹皮ヲ乾燥後常法依リ煎出シタル液ヲ温湯浴上ニテ濃縮シ、エキス狀稠度トナレバ秤量
シ原皮ニ對スルエキスノ量ヲ求メ賦形藥トシテ小麦粉ヲ混シ適量ノ錠劑ヲ作製ス

三、多硫化石灰液（皮膚病治療藥）

硫黄末一、生石灰二、水三ノ割合ニ混シ一二時間者沸セバ赤褐色ノ多硫化石灰液ヲ得

上澄液ヲ傾斜シ温浴用又患部ニ塗布ス

四 糠油 (糠タルニシテ皮膚病治療薬)

圖ノ如キ装置ヲ以テ常法ニ依リ乾餾セバ收得油ハ黒色タル狀ヲ呈ス

最初ハ煙ヲ發生シ漱次水分共ニタルヲ餾出ス

收得量ハ米糠ニロロ瓦ヨリタル及水分混合物一ニロロ得

直接患部ニ塗布ス要スレバ多硫化石灰液ヲ混セバ効果更ニ大ナリ

五 粒狀藥用炭

木綿又ハ鋸屑ノ適量ニ五%硫酸ヲ充分濕潤セシメ甘燭又ハ素燒ノ壺中ニ入レ蓋ヲナシ

テ直火ヲ加熱ス硫酸ノ白煙全ク熄シタル頃内容品ヲ攪拌シツ時ノ後一部ヲ取出シ

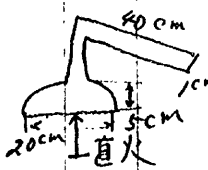
蒸餾水ニテ煮沸シ青色リトマス試験紙ヲ赤変セス且完全ニ炭化シテレバ容器ヲ炊中

ヨリ取出シ蓋ヲシタル儘放置ス本品ハ重質粒狀ナルヲ以テ調劑時飛散セズ

使用ニ便ナリ且陸局ニ適用シ効果大ナリ

六 代用アドソルゼン

酸性白エヲ粉末トシ之ニ約一ロ%稀塩酸ヲ約ニ倍量加ヘ玻璃容器又ハ素燒テナイ



容器ニテ煮沸三、四時間續ケタル後静置シテ上澄液ヲ流出シ數回洗滌シタル後必要ニ應ジ残ル酸分ヲ石灰水ニテ中和シ濾過水洗右一ニロ度一ニロ度ニテ乾燥シ精製ス 本品ハ市販「アドルビ」ト大差ナク効果顯著ナリ

七 濾降炭酸石灰

石灰ヲ約三〇%ノ塩酸中ニ充分攪拌シツテ徐々ニ加ヘ全ク煮沸セザルニ到リ尚少量過刺ノ石灰ヲ加ヘ過酸化水素液ヲ加ヘルカ一%過マシカニ酸カリ液ヲ該液ノ色が脱色スル迄徐々ニ加ヘ充分攪拌シテ放置後上澄液ヲ濾取リ炭酸ソーダノ一〇一三〇%溶液灰汁ノ濃縮セルモノニテモ可シテ充分攪拌シツテ沈澱ノ發生セザル迄加ヘ煮沸スルカ一夜放置シ沈着セシ上澄液ヲ「サイネ」ニヨリ捨テ沈澱水ヲ加ヘテ洗滌シ沈着後上澄液ヲ除去ス沈澱ガ全クアルカリ性ヲ呈セザルニ到リ布ニテ濾過シ沈澱ヲ乾燥使用ス

八 水虫液

處方左ノ如シ

サリチル酸 二五〇

リチネ 五〇〇

酒 精 二〇、〇

メニタ酒 二五滴

昇 汞 〇、五

九、飴ノ製法

飯(又ハ八分粥)ヲ炊キ之ヲ約六〇度ニ冷シ米一升ニ粗製ガアスターセ(後記ス)

三〇瓦ヲ加ヘ充分混和シ壺ニ入レ布ヲ以テ覆ヒ置ク時ハ約一晝夜ニシテ糊狀ト

ナルヲ以テ之ヲ布ニテ搾リ其ノ燻液ヲ攪拌シツツ加熱スルトキハ水飴ヲ得

粗製ガアスターセハ粉ヲ濕シテ菓ノ中ニ入レ置ク時ハ二三日ヲ發芽スルヲ以テ

芽ヲ採集シ乾燥粉末トセルモ多ク使用ス

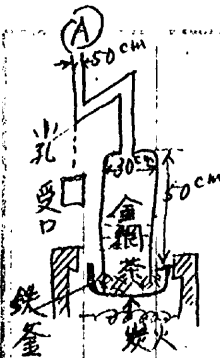
十、カフェインノ製法

現地綠茶ヲ圓ノ如ク裝置ニ依リ乾餾シテ製ス

乾餾シテ昇華スルニ「カフェイン」ハ絹紙狀トナリテ金網ニ補集

サル(A)ノ排氣孔ヲ加減シテ「カフェイン」ノ散逸ヲ防グ

收得量ハ現地茶ノ重量比ニシテ六〇、七%ナリ



(端谷長・製法)

金網ニ得タル粗製「カフェイン」ノ精製ハ藥品ノ關係上昇華法ニヨレリ、

十一、カリ石鹼

イ苛性カリノ製法ハ不灰ニ熱湯ヲ加ヘ充分攪拌シテ得タル濾液ニ更ニ新シキ木汁ヲ加ヘ者沸シテ炭酸カリヲ補集ス、濃厚ナル炭酸カリ溶液ニ過剰ノ生石灰ヲ加ヘ煮沸濾過シ濃縮シテ濃厚ナル苛性カリヲ得

ロ、石鹼ノ製法ハ茶油又ハ桐油ノ適当量前記苛性カリ液ヲ適当量加ヘ煮沸スルニ鹼化セザレバ油ノ全ク消失スルニ到ラハ枚冷シ常温ニナリタル頃食塩結晶ヲ加ヘテ攪拌石鹼ヲ塩析シ濾過後石鹼ヲ温浴上又ハ直火ニテ注意シツツ濃縮シ適當ノ濃度ニ到ラシム

尚食塩回收ノ爲ニハ石鹼ヲ除去セル液ヲ濃縮シ食塩ヲ析出セシメ回收ス

十二、轉化糖液

白糖三大ロ瓦ヲ「コルベン」ニ入レ蒸餾水六ロ瓦ヲ注ギ一%塩酸一二瓦ヲ混和シ一時間六ロセロ度ニ加熱ス一夜放置後中和ノ目的ヲ以テ五%重曹水六瓦ヲ混和シ更ニ蒸餾水六ロ瓦ヲ加ヘ稀釋ス濾過後異物ノ混入夾雜物ノチキ

ラ確メタル後蒸気滅菌ヲ四五分間行ヒ使用ス

十三、當藥散 (健胃劑)

柑皮末 九分

龍胆末 一分

浪和丸中ヨリ一五瓦ヲ百量トス

十四、キサ、ゲ煎 (利尿劑)

キサ、ゲ煎 (ニ〇〇) 一〇〇〇

ロニ多サツカリシ液 一五〇

右一日量

以上

(加付紙・原紙)

0843